

平成19年度県立取手第一高等学校自己評価表

目指す学校像	本校の校訓（至誠・醇厚・自彊）の精神のもとに自ら学び自ら考える力を育み、社会の変化に対応できる能力を備えた心豊かな人間の育成に努める。また、総合学科としての進学校を目標に教職員が一致協力し学校運営に努め、生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。								
昨年度の成果と課題		重点項目	具 体 的 目 標				達成状況		
各分野の目標を達成するために教育課程の一層の改善を図り、確かな学力を育成する指導の工夫に努めた。特にアカデミック系列では希望する大学への進学が可能となる学力を養う指導、プラクティカル系列・インフォメーション系列では資格取得を進める指導をより一層強化した。		総合学科における効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。	①教育課程の改善や進路目的別クラスの編成など分野・系列別指導を徹底する				B		
			②HT, MTとの面談を通して進路希望と結びついたより望ましい科目選択をさせる。						
			③情報分析と資料提供を積極的に行う。 【国公立大学合格者8名、私立大学合格者110名】						
		大学進学希望実現にむけた効果的な学習指導方法の確立を図る。		心の教育の充実を図る。	④授業時間を確保し、興味・関心を持たせる授業を展開する。				A
					⑤授業内容の充実をはかり、生徒の学習意欲を喚起する。				
					⑥小テストや確認テストを実施し、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。				
					⑦課外指導の継続、自習室やQ&Aルームの有効活用を図って入試に対応できる学力を身につけさせる。				
		高校生活の充実を図る。		心の教育の充実を図る。	⑧専門性や資格取得を活用した推薦入試体制を一層推進する。				B
					⑨基本的生活習慣を確立させ、安定した高校生活を送れるようにする。				
					⑩丈夫な体をつくり、豊かな感性を養う。 ⑪ボランティア活動や道徳教育を推進させ、心の教育の充実を図る。 ⑫教育相談体制の充実を図る。				
		高校生活の充実を図る。		心の教育の充実を図る。	⑬体験入部や部活動紹介を通して部活動加入率を高める。 【部加入率 50%】				A
					⑭雁耕祭（文化祭）等の学校行事や委員会活動の充実を図る。				
⑮心身の健康保持増進のための環境整備に努める。									
⑯各校務分掌、保護者・地域社会との連携を密にする。									
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策			関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題		
教科指導	基礎学力を定着させる。	授業を削減せず、定時開始、定時終了を徹底する。			①	A	B		
	主体的に取り組める学習の場を設定する。	創意・工夫のある分野・系列別指導を徹底する。			④	B			
教 科	基礎学力の向上をはかる	学校全体で取り組む漢字小テストに向けて、対策問題や家庭学習等の事前指導を実施する、またその結果を把握し、国語科としての指導を行う。			⑥	B	B	・小テスト対策の具体化 ・習熟度別授業の実施	
		単元や教材の終了時には、必ず語彙・文法・漢字等の小テストを実施し、事後の指導の徹底をはかる。			⑥	A			
		漢字検定2級の資格取得に向けての補習を強化する。（対策課外の長期化・指導内容の充実）			⑦	B			
	古文・漢文・現代文を深く読解、干渉することで心豊かな人間作りを目指す。	音読・朗読・暗礁等の読みの徹底を図ることにより、古典の世界に溶け込ませる。			⑩	A			
		古文単語テストや暗礁テストを実施し、関心を喚起することで次段階への足がかりとする。			⑥	A			
	総合学科で学ぶ生徒の進路に対応した授業内容を展開する。	要旨や感想文等をまとめさせることで、自己の内面を見つめ表現する力を養う。			⑩	A			
		進路別・習熟度別にクラス分けをし、生徒の実態に即した教材や副教材の採択をし、授業形態にも配慮する。			①	C			
一人ひとりの個性を伸ばすため、また多様化された社会に対応できるように、偏りのない、多くの教材を学ばせるよう配慮する。			①	A					
読書指導を強化し、進路指導の一助とする。			①	C					

教科	地歴公民	基礎学力を定着させる。	単元終了時など適切な時期に小テストを実施する。	⑥	A	A	・受験対策の授業と自ら学ぶことを重視する授業の違いを踏まえて指導計画を立てること。 ・センター試験の地歴科目の平均点を5点上げる。
			課題を出すなどして、家庭学習方法の指導を行う。	⑤	A		
			センター試験の公民科目の受験者を増やし、地歴科目は平均点を5点上げる。	⑤⑦	B		
		よりよい授業づくりにつとめる。	新聞などを用いて時事問題を適宜取り上げ、社会への関心を喚起する。 視聴覚教材やインターネットを活用し、生徒の理解を深める。	④ ⑤	A A		
	数学	基礎学力の定着をはかる。	基本計算の反復練習をさせる。	⑤	A	A	特になし
			習熟度別クラス編成により、きめ細かい指導を行う。	⑤	A		
			補習や課外を実施し、生徒個々の学力の伸長に努める。	⑦	A		
		家庭学習習慣の定着をめざす。	工夫した授業により、数学に対する興味・関心を高め、家庭でも学習するよう常に促す。	④	B		
			課題を定期的に与える。	⑤	A		
			課題テストを定期的実施する。	⑥	A		
	模擬試験・センター試験に対応した指導を行う。	教科書の例題や問いを説明する中で、模擬試験にもつながるよう意識した授業を行う。	⑦	A			
		模擬試験やセンター試験レベル等の問題を必要があれば取り入れ、基礎的な学力を高める。	⑦	A			
	理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験を多く行う。	④	A	B	・模擬試験の事前・事後指導を充実する。 ・進学指導部と協力し、効率的な課外・特編を行う。 ・生徒の興味関心を引くような授業を継続し、実験・観察・実習・映像資料の活要をさらに充実する。
			身近なものを例に出し、導入部分に力を入れる。	④	B		
			観察が困難なもの等については、CGや映像資料を活用する。	④	A		
		科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い、レポートの考察に重点を置く。	⑤	A		
			課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。	⑤	B		
			授業中の発問を工夫し、思考力を高める。	⑤	B		
	大学入試レベルの学力を身につける。	小テストなどで基本的な概念や原理・法則の定着を図る。	⑥	B			
		課外を積極的に行い、問題を解くことに慣れさせる。	⑦	A			
		模擬試験前には過去問を解かせ、模擬試験実施後には解説を行い弱点の克服に努める。	⑦	B			
保健体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	⑩	A	A	・高い目標を達成するために、リーダーシップ・メンバーシップを確立し、積極的な主体的な活動ができるように支援する。	
		グループ学習を通して価値観を広げる。	⑩	A			
		自己実現に向けて、ライフ・スキルの向上を図る。	⑩	B			
	体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	⑩	B			
		体づくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	⑩	B			
		測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	⑤	A			
	自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気活動するとともに、集団行動のマナーを身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声でのあいさつの励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	⑨	A			
		声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養う。	⑨	A			
リーダーを中心として迅速な行動を促し、集団の目的が果たせるように指導する。		⑨	B				
音楽	基礎知識の習得をはかる。 豊かな感性を養う。	基礎～応用を行うことで、より多くの音楽に関心を持たせる。	④	B	B	・応用をもっと充実させて行いたかった。	
		実技・鑑賞を通し創意工夫や創造力を養い、豊かな感性へとつなげる指導を行う。	⑩	A			
		施設・用具を大切に扱う態度を身につけさせる。	⑩	A			
美術	美術Ⅰ 作品制作を通して鑑賞能力を高めると同時に、創造的に生きる力を養う。	観察力を高め、表現の基礎力を培うために継続的にクロッキーを行う。	⑥	A	B	美術Ⅱは、目標達成ができなかった。目標達成の為に、制作意欲を高める課題研究等をもっと必要である。	
		構想力・表現技術を養うため絵画・デザイン・立体の三つの領域から適切な課題を指導計画に設定する。	⑤	A			
		作品完成後は講評会を行い、作品のコンセプトなどを討論し合いながら鑑賞能力を高める。	⑤	B			
	美術Ⅱ デザインを中心に授業を展開し、情報社会の中の美術の意義について理解させる。	美的で感性豊かな表現をさせるために、グラフィックデザインを主に作品制作を行う。	⑩	B			
		与えられた条件の下で、創造的な作品を完成させるまでのプロセスを大切にしながら授業を進める。	⑤	C			

教科	書道	日常の学習活動を通して豊かな心とねばり強い心を養う。	書道の道具の成り立ち等を理解させ、ものを大切にすることを育てる。	⑩	B	B	・課題に興味・関心を持たせるための工夫や準備に心がける。
			生徒と共に、授業後の整理整頓をきちんと行う。	⑩	B		
			課題に対する興味・関心を持たせ、意欲を持って作品制作に取り組ませる。	⑤	B		
	英語	自発的な学習を目指す。	予習、復習の定着を計り、さらに計画的、継続的な週末課題の実施を通して自発的な問題解決学習へと導く。	⑥	B	B	・3年間を見据えた指導計画を立て、家庭学習の習慣化を図る。 ・モーニングテストへの意識付けを向上させ、基礎学力の定着・向上を目指す。 ・上位層の伸長を図るための課外の在り方は、学年ごとの話し合いが必要。
		基礎学力の定着からさらなる実力の向上を目指す。	授業重視の学習に加え、問題演習やセンター入試対応問題の実践へと3年間を見据えた計画的な指導計画を立てる。	④	B		
		上位層生徒の伸張及び下位層生徒の向上を図る。	上位層の伸張を図るため、課外の在り方を構築する。	⑦	B		
	家庭	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	身近な生活課題を取り上げ、問題解決的な学習展開の工夫に努める。	④	B	B	・実験・実習を取り入れたことが効果的な授業展開へと繋がった。今後も単元ごとのポイントを明確にし学習内容・教材をさらに考え工夫していく必要がある。
			実験・実習により学習の効果を高める。	⑤	A		
			確実な定着を図る意味で学習を振り返り、自己評価・確認小テストを実施する。	⑥	B		
		興味・関心・楽しさを感じる授業づくりに努める。	単元ごとに効果的で、生徒自ら主体的に学習活動を行う内容・教材を考え導入する。 学習環境を整備し火気、用具、材料等の取り扱いに注意し事故防止の指導を徹底する。	④ ⑤	B A		
	工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現する。	①	A	B	・ものづくり教育を推進する。
			2年次の授業で、「工業教理」「工業基礎」の内容を補い、基礎力を向上させる。	⑤	B		
		資格指導を充実させる。	「工事担任者」「ボイラー技士」については授業において積極的な指導を行い、適期に課外を行う。 「危険物取扱者」およびアーク溶接・ガス溶接の資格指導については裾野を広げた取り組みを行う。	⑧ ⑧	A A		
		時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やロボット・制御技術、およびCADなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。	⑧	B		
			レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取入れ、現代の技術者として必要な表現力を育てる。	⑧	B		
	商業	わかる授業展開と学習意欲の喚起	教材研究に心がけ、生徒の実態を確認しながら授業展開する。	①	B	A	・効果的な授業展開をするために、生徒の実態に合った指導方法や補助教材の精選に心掛ける。
		専門性と学力向上の充実	補助教材等を活用と個別指導の充実の努める。	①	A		
		検定試験の合格率の上昇	計画的な家庭学習及び課外授業を実施させ自学自習の定着を図る。	⑤⑥	A		
	情報	情報化社会の基礎的素養としての情報処理能力を身に付けさせる。	ワープロ、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの基礎的な操作方法を身に付ける。	④⑤	B	B	・検定試験に対する望ましい態度を身に付けさせていく必要がある。
		資格取得を通じて自信を深めさせ、更に上級の資格や、他の資格へ目を開かせる。	9月に情報処理検定、11月にワープロ検定受験を必須とし、昨年度以上の合格率を目指す。 情処95%、ワープロ80%。→ 実際は情処85.6%、ワープロ55.5%	⑧	C		
	教務	総合学科の教育課程づくりの検討をする	新設の「分野運営委員会」との連携・協力のもとに、教育課程づくりの検討を行う。	①	B	B	・分野・自由科目選択を含めた、教育課程の再見直し。
資格・検定等についての情報提供と合格者データの一元化		専門性や資格取得を活用した推薦入試・就職体制を一層推進するための資格・検定試験の合格者データなどの資料提供等ができるシステムをつくる。	③⑧	B			
学校広報活動の充実		保護者・地域住民・中学生・卒業生との係わりをもつための「学校通信」の発行、「ホームページ」による本校の教育活動の紹介や各年次、校務分掌等の活動や情報の公開を継続・検討していく。	⑯	B			

生徒指導	基本的生活習慣の確立	頭髮・服装指導の継続的実施のより、服装の適正化を図る。	⑨	B	B	・教員間の意思統一における行動の実行化を図る。 ・保護者、地域、機関との連携を重視する。
		毎日の遅刻指導と月間の遅刻指導の併用により遅刻者の減少を図る。	⑨	B		
		登校指導の継続により、学校生活への意識付けを強化する。	⑨	A		
	問題行動の予防	教科、HR、講演等とおして問題行動の予防を継続的に図る。	⑨	B		
進路指導	キャリア教育の推進	家庭との連絡を密にし、校則等の遵守に協力してもらう。	⑩	B	A	・女子の進路指導 ・進学希望のキャリア教育をどのようにするか。
		登校・下校指導や行事へ保護者、青少年相談員等の積極的な参加をお願いする。	⑩	C		
		3年次だけの進路指導ではなく、1・2年次とも連携を強化し段階的指導を確立できるよう努める。	②	B		
	就職指導の充実	進学指導部や教科と連携し、資格取得を活用した進路実現を一層推進する。	⑧	B		
		インターンシップの充実を図る。	⑩	A		
		総合学科に対応した求人開拓と企業への説明を行い、理解を求める。	①	A		
適切な専修学校進学指導	年次およびハローワーク等校外外との連携を強化し、就職未決定者を極力なくすよう努める。	⑩	A			
	ガイダンス機能を生かし、就職意識の向上および事前・事後指導の徹底を図る。	①	A			
進学指導	全生徒の基礎学力向上、一般入試に対応できる応用力の増進	教員、保護者、生徒に対して適切な情報提供および研修の機会を設ける。	③	B	C	・進学通信を全年次に配布する。 ・進学希望者増加に対応した推薦受験指導 ・進学指導室利用の促進 ・国立大5名合格を目指す
		進路室の環境を整備し、個別相談・指導の充実を図る。	③	A		
	大学進学指導体制の充実を図る 国公立大学合格者8名 私立大学合格者110名	週2回の朝小テスト、Q&Aルーム、自習室、課外授業の充実など大学進学のための全校的な取り組みの充実を計る。	⑥⑦	B		
		電光掲示板、ホームページ、進学通信、進学講演会、個人面接資料配布などを通じて、教員への進学指導支援体制を確立する	③	C		
		年次、進学指導部間の連携を密にして、国公立大学を目指す生徒の個人指導を強化する。	③⑧	D		
本校独自の大学進学指導用校内データの完成を目指す。	一般入試受験者数を倍増を目指し、より大学受験に則した学習活動の拡充に努力する。	⑤	C			
	指定校推薦、公募制推薦、AO入試における総合学科枠を確保するため大学訪問を積極的に行い、情報収集に努める。	⑧	C			
特別活動	HR活動を重視し、豊かな心の育成を図る。	総合学科卒業生の個人データを蓄積、分析し、本校独自の合格指針を確立を目指す。	③	D	A	・部活動の加入率増加と質の高い活動支援を図る。 ・国際交流事業の充実 ・豊かな心の育成
		LHRや「道徳」の時間を活用し、心の教育の充実を努める。	⑪	A		
	ボランティア活動の活発化を図り、社会に貢献する態度を育成する。	⑪	A			
	部活動の充実を図る。	体験入部を活用することによって新入生の入部を促し、部活動や同好会活動の活性化を図る。	⑬	A		
保健	生徒の学習環境を整備する	生徒会を中心とした生徒の自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	⑭	A	B	・学習環境の整備を第一目標に挙げ、生徒の心身の健康支援に心がける。
		年次やHR・地域・PTAとの連携を図り、学校行事をより充実させる。	⑩	A		
	生活習慣と心身の健康の確立	学校環境の安全点検を学期に1回行う。	③	B		
渉外	総合学科としてのPTA諸活動の確立と活性化に努める。	学期に1回、全校生徒による清掃活動を行い、学習環境の整備と環境美化意識を高めさせる。	④	B	B	・PTA事業全般については、ほぼ順調に進行しているが、役員候補の選出、保護者同士の連絡体系について方法を確立したい。同窓会組織は自主独立に向け尽力した。入会式への役員出席増加や同窓会役員の中から事務処理等の分担作業が進行中で様子を見たい。
		参加者の増加のため総会・研修会への案内は郵送で行い、更に電話等でHT・クラス役員から参加を促す。事業については早期に企画・立案を行い内容の充実を図る。	⑮	A		
	PTA専門委員会・年次PTAを活性化し、学校外行事に積極的に参加する。	専門委員会と年次委員会の構成を原則分業し、総参加人数の増加、責任分担を明確化する。県南・県・関東・全国大会等のPTA事業に関して参加して研修を深め、本校へ還元する。	⑮	A		
同窓会組織の確立と活動の活性化に向け助勢する。	平成17年度同窓会室設置を受け、同窓生の膨大な人的財産を有効活用し学校諸活動に反省する為の協力を行う。	⑮	C			

図書館	読書への興味・関心を高め、心豊かな人間の育成を図る。	年次との連携の元にクラス単位での集団読書を実施する。	⑩	B	A	・委員会活動の強化 ・読書教育の充実
		図書委員会主催の読書会を実施する。	⑩	A		
		読書感想文、読書感想画コンクールに応募する。	⑩	A		
	生徒・教職員の学習活動・教育活動を援助する。	教科・部との連携を図り、図書館資料を活用した学習指導が積極的に行われるよう働きかける。	⑤	A		
		生徒の健全な教養を育成する資料の計画的収集および、活用に努める。	⑩	A		
		教職員の教育活動を援助する資料の収集や活用に努める。	④	A		
委員会活動の強化を図る。	高教研主催の研修会（県南地区図書委員研修会、図書委員中央研修会）に参加する。	⑭	A			
	校内行事、放送コンテスト、アナウンスコンテスト等に参加する。	⑭	A			
3年次	学習活動の一層の充実をはかる	昨今の社会情勢や、進路先の状況を理解させ、無駄な学習は何もないことを認識させ、授業に取り組みさせる。	①⑤	B	B	・多様化する入試方法への対策は、部と年次で早い段階から計画すると効果が見込める。 ・精神面で不安を抱えた生徒が多い現状であるので、連絡を密にして、関係者の多くの尽力で良い方向へ導いていく必要がある。
		課外、資格試験対策指導の充実をはかり、自信を持たせるとともに、進路につながるよう指導する。	⑦⑧	A		
	進路希望の実現をはかる	生徒希望の把握とそれに対する情報提供を、面談を通じて行う。	③	A		
		分野の特性や個人の適性を適切に把握し、A0や推薦などを含めた多様な入試に対応できるようアドバイスする。	⑦⑧	A		
	社会の一員としての自覚ある行動を促す	3年次であることを自覚させ、決まりを守ることに重点を置いて指導する。	⑨	B		
HR内容、学校行事を充実させ、生徒に役割を認識させるとともに、クラス、学年としての連帯意識を培う。	⑭	B				
2年次	基礎学力の定着と向上を図る。	授業を大切にするとともに、生徒の能力・適正に応じた課外授業や補習、週末課題を実施する。	④⑤⑦	A	B	・生徒個々の適性や希望に応じた進路指導を継続的に実施する。その中で学力の向上をさせるとともに高校生として望ましい生活習慣を身に付けさせる。
		模擬テストや実力テストを実施することで、生徒が学力を確認し向上する意欲を持たせる。	⑤⑥	A		
	各種資格を取得させる。	英語検定や漢字検定、実業系専門科目の資格取得を推進する。	⑧	B		
		難易度や実施時期等、バランスのとれた検定試験日程を計画することで取得率向上を図る。	⑧	B		
	高校生という集団の中での自分を認識させ、望ましい生活習慣を身につけさせる。	挨拶の励行、言葉遣い・態度を育成する。	⑨	B		
		面談や観察を通して生徒個々を把握し、的確な指導・支援を行うことで、生徒個々、年次全体の健全な成長を促す。	⑨⑫⑮	B		
		適切な進路の方向性を決定させる。	情報の提供を積極的に行い、面接を適宜実施して生徒の希望・能力・適性を把握する。	③		
将来を考えた、長期的多角的な視点から分野を選択させ、どの進路にも対応できる学力を育む。	③		B			
1年次に引き続き、面談指導や進路相談を通して大学進学希望者を増やす。 (数値目標 大学進学希望140名 国公立大学進学希望30名)	③	B				
1年次	学習習慣を定着させる。	1回ごとの授業を大切に、予習・復習を徹底させる。	⑤	B	B	・自宅での予習復習の習慣を確実に身に付けさせる。 ・けじめのある年次になるように保護者との連絡を密にして対策をたて、年次全員の共通理解のもと生活指導にあたる。 ・モーニングテスト、漢字ボックスへのやる気を引き出す。面談の回数を増やす(後期に二者面談週間を設けたい)
		家庭学習が定着するよう、家庭との連絡を密にし、啓発、指導・援助を行う。	⑥	C		
		模擬テストを実施することで、学力を確認し、向上する意欲を持たせる。	⑦	A		
	高校生という集団の中での自分を認識させ、望ましい生活習慣を身につけさせる。	面談や観察を通して生徒個々を把握し、的確な指導を行うことで、年次全体の健全な成長を促す。	⑫	A		
		ルールを守る。挨拶の励行、言葉遣いなど基本的な生活習慣を確立させる。	⑨	B		
		時間に対する意識づけ。(遅刻をさせない指導)	⑨	C		
適切な進路の方向性を決定させる。	将来を考えた、長期的多角的な視点から分野を選択させ、どの進路にも対応できる学力を育む。	①	A			
	情報の提供を積極的に行い、面接を適宜実施して生徒の希望・能力・適性を把握する。	③	A			

※評価基準 A:大変よくできた B:よくできた C:やや不十分 D:不十分